

## 2019年度第2回一般社団法人日本疫学会理事会 議事録

日時	2019年(平成31年)4月27日(木)13:30-16:30
場所	大阪大学東京ブランチ日本橋サイエンスビルディング9階 会議室912 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町二丁目3番11号
出席者	(順不同、敬称略) 理事: 祖父江友孝(理事長)、玉腰暁子(副理事長)、三浦克之(副理事長) 井上茂、岡村智教、片野田耕太、金子聰(Web)、郡山千早、小橋元、 曾根博仁、田中純子、中山健夫、本庄かおり、松尾恵太郎(Web)、 安田誠史、若井建志 監事: 西信雄、横山徹爾 学会事務局: 喜多村祐里(事務局長)、西野雅子、糟谷里美
欠席者	理事: 井上真奈美、尾島俊之、栗山進一、近藤克則

- 理事会に先立ち、祖父江理事長より、理事・監事18名の出席により理事会が成立していることが確認された。
- 当該監事の指摘により、一般社団法人法に基づいて理事会では委任状による出席は認められないと判断されることから、委任状提出者についても欠席者とした。

### <協議事項>

1. 2019年度第1回一般社団法人日本疫学会理事会/第2回社員総会議事録(案)は承認された。
2. 疫学専門家認定制度に関する細則(案)について、小橋理事(資格審査WG長)より説明があった。前回と異なる点として、疫学専門家および上級疫学専門家ともにレポートを課すこと、更新要件については研究環境の変化等を考慮して、過去5年間で100ポイント以上を得ていること、制度発足から2年以内の疫学専門家、上級疫学専門家の同時申請の審査料は2万円とすることがあげられた。また、別表1~4のポイントについても活発な議論が交わされた。  
疫学専門家試験問題作成要項について、井上茂理事(疫学専門家試験作成WG長)より、活動報告および疫学専門家認定に関わるスケジュール(案)と試験問題作成要項(案)について、さらに、試験問題作成委員等への協力と守秘義務について説明があった。(疫学専門家・人材育成委員会)
3. COI細則の変更について、郡山理事(COI委員長)より、日本医学会「COI管理ガイドライン」における主な改定内容について説明があり、整合性を保つために「疫学研究のCOIに関する指針」および「同細則」の変更についての提案があった。COIについては、申告、開示、および(請求にもとづく)公開の区分があり、各々について検討・協議が行われた。さらに、COI申告基準の変更とCOI自

己申告書様式の変更・修正について確認が行われた。JE への投稿時には、研究費等の金額に関わらず ICMJE が提唱する様式に準じて申告・開示することが確認された。学術総会などにおける発表の機会は、広く若手研究者に与えられるべきとの観点から、発表者全員の COI 申告を演題登録時に求めることは負担が大きいとの意見もあり、登録時の COI 自己申告は（全共同演者を代表して）筆頭演者のみとし、発表時には指針に基づいて発表者全員の COI 状態の開示を義務付けることで、合意が得られた。申告書類の取扱いおよび保管についても、日本疫学会「疫学研究の COI に関する指針」の細則（第 5 条）に則った管理を徹底させるべきとの意見があった。（COI 委員会）

4. 学術総会規定（案）について、喜多村総務委員長より、活動報告および学術総会規程（新規）の修正案について説明があり、協議事項 3 の COI 細則との整合性を保つために、第 7 条の（4）の文言を変更することで合意が得られた。変更後は理事会メーリングリストによる持回り審議にて承認予定となった。（総務委員会）
5. その他の協議事項について、祖父江理事長より説明があり、フォーラム「社会医学/予防医学系研究の将来像」（7/13 @東京大学大学院医学研究科）へ 6 名の理事が参加を希望していること、IJE エディター候補者として永田知里先生を推薦すること、日本肥満学会からの協力依頼、診療報酬改定に向けた医療技術の評価・再評価に係る提案への協力について、承認された。

#### <報告事項>

1. 各委員会等から次の報告があった。
  - 1) 疫学リソース利用促進委員長の岡村理事より、次の報告があった。

1 月 30 日に厚生労働省からゲストを招聘して、WG メンバーも含めた拡大委員会を開催し、データの取り扱い方等について議論した。倫理問題検討 WG では、緊急時や地域介入時の同意の取り方等に焦点をあて、実務上の問題やテクニカルな問題などを整理して議論すべきとの課題が出された。リンケージ基盤推進 WG では、既存公的統計・保健医療データベースのほとんどが、データベース間の個人データリンケージを想定していない状況である。既存疫学研究データ・試料の資源化と共有・活用の促進 WG では、薬剤疫学会の Outcome Definition Repository への参加のため、同 WG 委員 1 名（杉山大典先生）の増員が提案され、認められた。
  - 2) 学会等連携推進委員長の曾根理事より、次の報告があった。

多様性（ダイバーシティ）促進委員会が作成中の会員登録票を用いて、会員の専門

分野について情報を予め把握し、依頼があった際に迅速に紹介できるようにしたい。共催シンポジウムは、日本産業衛生学会（5/23）、日本動脈硬化学会（7/11-12）、日本臨床栄養学会・日本臨床栄養協会（10/26）との企画が開催される予定である。また、2019年6月～2020年3月に実施される日本医学会連合社会部会が企画する若手リトリート（若手研究者を中心とした合宿形態の研究交流集会）について、日本疫学会の窓口を学会等連携推進委員会が担当することになったとの報告があった。

続いて、禁煙推進学術ネットワーク連絡WG長の片野田理事より「禁煙推進学術ネットワーク」の定例会議（2/12）の内容についての報告があった。第11回たばこの健康影響評価専門委員会では、屋外の喫煙所の設置基準や加熱式たばこ専用喫煙室の煙の流出防止基準などが議論された。また、循環器疾患診療実態調査のデータ利用申請、加熱式たばこ使用後の急性好酸球性肺炎発症の報告、タバコ関連企業からの資金による研究調査の実施、財務省たばこの注意文言（警告表示）の見直しに関する要望書の提出について報告された。

3) 多様性(ダイバーシティ)促進委員長の田中理事より、次の報告があった。

現在改訂中の会員登録画面では、新しく職能や専門分野等を付加し、英語表記についても委員の意見を踏まえながら、入力しやすさも考慮の上、修正を行ったとの説明があり、代議員選挙のタイミングで会員への周知と更新の依頼をすることが承認された。

4) 広報委員長の中山理事より、次の報告があった。

4月15日にニュースレター53号が発行された。また、一般向けコーナーでは、疫学用語についてのアクセス数が多かった。プライバシーポリシーの「3 個人情報の収集」に「アクセスログおよびCookieについて」を追記することにした、との報告があった。

疫学リテラシー普及促進WGの活動について、WG長の安田理事より、2年間の活動方針のうち、「国民の疫学研究に対する理解と信頼の現状把握」および「教育課程における疫学の考え方の普及」を重点的に活動した結果、国民の疫学に対する理解と信頼の現状にかかわる資料を、松田委員が実施する厚労科研課題で実施する調査から収集することとし、調査案をWGが提案して2019年3月にネットリサーチを実施した。今後WGメンバーが調査結果に考察を加える予定である、との報告があった。

さらに、メディア連携WGの活動について、WG長の金子理事より、WGの方向性として、メディアを通して適切に疫学情報を国民に伝えることを目的として、その情報提供について検討するとの認識を確認したことが報告された。その他、Webサイト

の充実や広報窓口の設置の必要性、公的統計の整備への本学会の貢献に関する声明のリリース（3月26日実施）などの活動についての説明があった。

最後に、玉腰副理事長より、「公的統計の整備への本学会の貢献に関する声明」についての報告があった。

- 5) JE 編集委員長の松尾理事より、2018年のJEのImpact Factorの見込みについて、2017年度のIF2.518より改善傾向にあるとの報告があり、JE論文を理事の関連するグループからの論文引用に含めてほしい旨の依頼があった。またCOIについて、ICMJE準拠に移行予定であることが報告された。さらに、JEの内容の充実に向けて、レガシーコホート論文（片野田先生リード）の継続や温故知新シリーズ（近藤尚己先生リード）の開始について説明があった。
- 6) 国際化推進委員会の井上真奈美委員長に代わり片野田委員より、次のように活動報告がなされた。北半球でも国レベル疫学会を保持する国を中心に地域交流を促進し、意見交換の機会を設けるために、JEA30（2020）時にIEA-WP Regional Symposiumを開催する。また、2021年か2022年にIEA-WP Regional Meeting in Korea開催に向けて、Web会議開催の調整を行っている。メルボルンでのWCE2020の会期中に、The 2<sup>nd</sup> Japan -Korea-Taiwan Joint Epidemiology Seminar Sessionをサテライトで実施する予定である。WCE2020（メルボルン）やIEA-WP Regional Meeting in Koreaに向け、トラベルグラントを準備する予定である。さらに、韓国疫学会40周年（2019年9月）に理事長等+委員の出席が必要な模様である。第30回日本疫学会学術総会（JEA30）のトラベルグラントの募集と選考手順は前年度と同様に行う。
- 7) 疫学専門家・人材育成委員会 疫学教育推進WGの本庄WG長より、2019年8月24日に、疫学会会員を増やすことを目的として、超疫学初心者を対象としたサマーセミナーを日本医科大学において実施する予定である旨説明があった。また、2020年日本疫学会学術総会（京都大学）におけるプレセミナー実施について、セミナー企画を広く疫学会会員より公募し、複数の企画を選定することを想定し、質保障のために受講料を有料にするとの説明があり、今後の予定（案）が示された。
- 8) COI委員会からは、上記の＜協議事項＞において説明があり、審議・承認された。
- 9) 選挙管理委員会の活動報告については、喜多村事務局長より、ホームページ（日本語、英語）掲載、2019年度選挙の主なスケジュールおよび代議員選挙の地域区分ごとの定数と立候補受付状況（4/25現在）について説明があった。

- 10) 総務委員会からは、上記の〈協議事項〉において説明があり、審議・承認された。
2. 第29回日本疫学会学術総会の実施状況について、津金学会長に代わり祖父江理事長より、一般演題が296（口演36題、ポスター201題）、疫学セミナー、国立がんセンター企画や、学会長講演、シンポジウム、日韓セミナー、日本疫学会企画等が実施され、参加者は947名（疫学セミナー267名）で、大変盛況であったとの報告があった。
3. 第30回日本疫学会学術総会の準備状況について、中山学会長より、概要およびプログラム案、今後のスケジュール等について説明があった。演題登録については、UMIN演題登録システムによる演題登録を準備中であること、広報活動の状況等が説明された。
4. その他の報告事項について、祖父江理事長より、次の報告があった。1/31に薬師寺参議院議員との面談があった（玉腰副理事長ほか4名が出席）。国立国際医療研究センターCIN 国土班からの依頼による「CIN構想の加速・推進を目指したレジストリ情報統合拠点の構想」（AMED採択）における代議員への「患者レジストリ及びコホート研究調査のお願い」の送信（2/25）を行った。その他、ゲノム医療に関する立法のイメージの構築、日本多施設共同コホート（J-MICC）研究 研究モニタリング委員の推薦、学術用語としての「率」「割合」の利用に関する提案、2019年度第3回理事会の開催予定（10/25）、学術総会引継ぎの開催（5/28 @ 国立がん研究センター）、代議員の被選挙権についての細則変更や疫学専門家認定制度に関する細則案等に関する理事長メール審議が行われた。
- また、社会医学系専門医認定委員会委員の井上茂理事より、社会医学系専門医制度の構築や日本疫学会を鍵学会とする経過措置指導医の申請者の書類審査等の活動と課題について報告があった。その他、指導医・専門医の必修研修（医療倫理、感染症等）を日本疫学会で開催可能かどうか、今後の検討事項としてあげられた。
5. 学会事務局活動および庶務について、西野職員より次の報告があった。
- 《学会事務局活動》
- 1月～3月の入退会：入会者は29人、退会者は21人
  - 会員へのメール配信、会計処理、人事管理など
  - 理事長ミーティング（Web）：2/5、3/5 4/9
  - 委員会等の活動補助（委員会開催、トラベルgrant対応、科研費管理、ニューズレター編集、選挙実施補助、メディア対応など）

- 第2回理事会開催準備
- ホームページの更新（事務局から15件、関連団体から23件）
- 関連団体の対応（後援名義使用の承認、アンケート調査回答など）

《庶務報告》

1) 会員数（2019年4月1日現在）

名誉会員：30名、代議員：177名、普通会員：2,106名（合計：2,313名）

※普通会員の内2019年度会費無料学生会員：23名

2) 年会費納入状況（2019年4月18日現在）

2018年度会費の納入義務のある会員：2,260名

2018年度までの会費納入完了者：2,005名（88.7%）

2年以上の滞納者：33名

以上